

[巻頭言]

持続可能な社会の創り手を育てる



文部科学省 初等中等教育局 教育課程課 教科調査官

なる かわ てつ や
鳴 川 哲 也

GIGAスクール構想。

1人1台端末と高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備することで、特別な支援を必要とする子供を含め、多様な子供たちを誰一人取り残すことなく、公正に個別最適化され、資質・能力が一層確実に育成できる教育環境を実現するという、文部科学省の施策である。この施策は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大以前から進められていたわけだが、感染拡大防止対策などを踏まえ、構想実現に向けた動きが急加速した。

各学校においては、「環境整備」から「活用促進」のフェーズに移行したと言ってよいだろう。教師には、1人1台端末は令和の学びの「スタンダード」であり、子供がICT端末を「文房具」として自由な発想で活用できるようにするという意識をもつことが求められている。

実際の理科の授業において、どのような活用方法があるのかを考え出すと、様々なアイデアが浮かんでくるのではないだろうか。「実験の様子を動画で撮影し、実験後に再生することで、事実を基にした考察をする」「学びの履歴を蓄積して振り返ることで、自分の変容を自覚する」「問題解決の活動を通して得た知識を日常生活で出会う自然の事物・現象に当てはめて、理解を深める」など。ICT端末を家庭に持ち帰ることができれば、学校での学びと家庭での学びの往還が生まれ、子供の学びの質は深まっていく。

このように、ICT端末は便利な文房具である。しかし、便利であるが故に、教師は、その活用の仕方が子供の資質・能力の育成につながっているのかを、立ち止まって考えることが必要である。

小学校理科では、従来、子供の問題解決の活動を重視している。しかし、ICT端末を手に入れた子供たちは、理科の授業において、心の中で次のように呟いているかもしれない。「ICT端末で調べれば分かるよ」と。

自分の諸感覚を通して、何度も対象に働き掛けて問題を解決していくことの意義や価値を、教師のみならず、子供自身も理解していることが極めて重要であると思う。真の子供の問題解決の実現が、持続可能な社会の創り手を育てることになると考える。